第４章　EUの農村アニメーター育成事業の特徴と示唆

―EMRAの概要と進捗状況―

松田　裕子

１．　はじめに

近年，目覚ましい拡大をとげているEUでは，共同市場からの利益に加え，多様なアイデアや人材の集積による経済的便益が増大している。

その反面，EUの農村が直面している現状は，必ずしも明るいものではない。もちろん，EUも70年代からその条件不利性は認識していたから，何も手を打たずに傍観していたわけではない。条件不利地域に対する直接支払だけでなく，ハードとソフトの両面から農村におけるインフラおよびサービスの水準を都市と均衡させるための各種施策を講じてきた。

にもかかわらず，依然として，農業経済の脆弱性ゆえに，農業労働力の減少は不可避であり，昨今のグローバル競争により，保守的で伝統的な農村の産業は崩壊しつつある。とりわけ中東欧では，都市と農村の社会的・経済的格差に起因した農村からの人口流出が顕著に起きている。

こうして，農産物の付加価値を高め，個別農家の収益性を高めることの重要性が，地域全体の農村活性化を図る観点からも一段と高まっている。とりわけ，EUのLEADER事業では，過去20年以上にわたり，地域資源を活用した農村イノベーションの誘発や，第1次産業と第2次・第3次産業とを連携させる農村経済の多角化等を推進してきた。

EU拡大やLEADER事業のひろまりとともに，事業の活動母体となるローカルアクション・グループ（Local Action Group；以下，LAG）の数が大幅に増加すると，農村振興の立役者となる「農村アニメーター（rural animator）」の存在と役割がクローズアップされるようになってきた。EUの経験が明示しているのは，LEADER事業の成否は，農村アニメーターの能力に依存すると言っても過言ではないという事実である。

このような中，EUでは，農村振興に必要な学際的かつ実践的な能力を身につけた，地域の将来を担う中核人材を育成することの重要性が認識され，2009年から農村アニメーター育成事業の準備・計画をしてきた。そして，来る2014年10月に，「農村アニメーターのための欧州修士プログラム（European Masters Programme For Rural Animators；以下，EMRA[(1)]）」が本格的にスタートする運びとなった。

EMRAでは，人材不足と地域振興への貢献度に反した報酬の低さという実態を解決するため，LAGを牽引する高度な人材を育成し[(2)]，これを農村アニメーターという新たな職業として確立させることまでを視野に入れている点が特筆に値する。

そこで本稿では，EUの農村振興に特化した人材育成の現状と課題から，我が国に示唆

される点を整理分析するとともに，EMRA プロジェクトの概要および進捗状況についてとりまとめることを主たる目的とする。

２．　農村アニメーターとは

（１）　農村アニメーターの役割

EU における LEADER 事業の実践を通して，農村アニメーターの存在が大きく取り上げられるようになってきたのは，成功している LAG には必ず有能な農村アニメーターがいることが共通認識となったからである [(3)]。

その一方で，農村アニメーターの現状については，まず，人材不足の実態が浮き彫りになった。ただ単に有能な人材がいないだけでなく，大学院でなければ育成できない高度人材であるにもかかわらず，これを育成する手段がとられていなかったことが理由として指摘される。よって，EU 共通の農村アニメーターの養成が喫緊の課題となったと言える。

それでは，農村アニメーターは，農村の社会・経済活動の発展のため，LAG においてどのような役割を果たすことが期待されているのだろうか。

なぜ，その育成が必要となるのか，なぜそれが容易ではないのか，を明らかにするため，以下では，農村アニメーターが担うべき役割を見ておくことにしよう。

①　地域のコミュニティ活動のリーダー役

農村アニメーターは，社会的な紐帯の強化，および地域のアイデンティティの再生に資するよう，LAG の持続可能な農村振興を主導するリーダー役を担う。

②　ボトムアップアプローチの実践における官民の橋渡し役

農村アニメーターは，“草の根”のニーズや意見をボトムアップ的に吸い上げ，LAG 全体をまとめていくとともに，行政や政策の意思決定者と地域コミュニティとの間のパイプを構築する，官民の橋渡し役を担う。

③　伝統的な農村社会におけるコーディネーター役

農村アニメーターは，モノ・技術・人・組織・社会の新しい結合を創出するためのコーディネーター役を担う。

具体的には，農村振興計画の実施において，地域のパートナーシップの構築，地域内外のネットワークの形成，ステークホルダーの説得および利害関係者の結集といった幅広いサポートを行う。

④　コミュニティの相談役

農村アニメーターは，責任感・独立性・自律性に富み，住民から信頼される相談役でなければならない。

以上を勘案すると，多様な人々を相手にした，高いコミュニケーション能力が必須となる農村アニメーターは，誰にでもできる仕事ではない。スキルだけでなく，パーソナリティをも兼ね備えた人材が求められると考えてよかろう。

（２）　農村アニメーターのタスク

（１）で前述した役割を踏まえると，農村アニメーターのタスクは，概して次の 2 つに大別することができる。

１つは，農村振興のあらゆる局面に関わるタスクであり，

- 振興計画の策定・実施，調整，管理
- イノベーティブなプロジェクトの提案
- 資金獲得，プレゼン，報告書の策定
- 農村の社会的，生態学的，経済的，文化的，政治的な文脈の変化に応じた対応

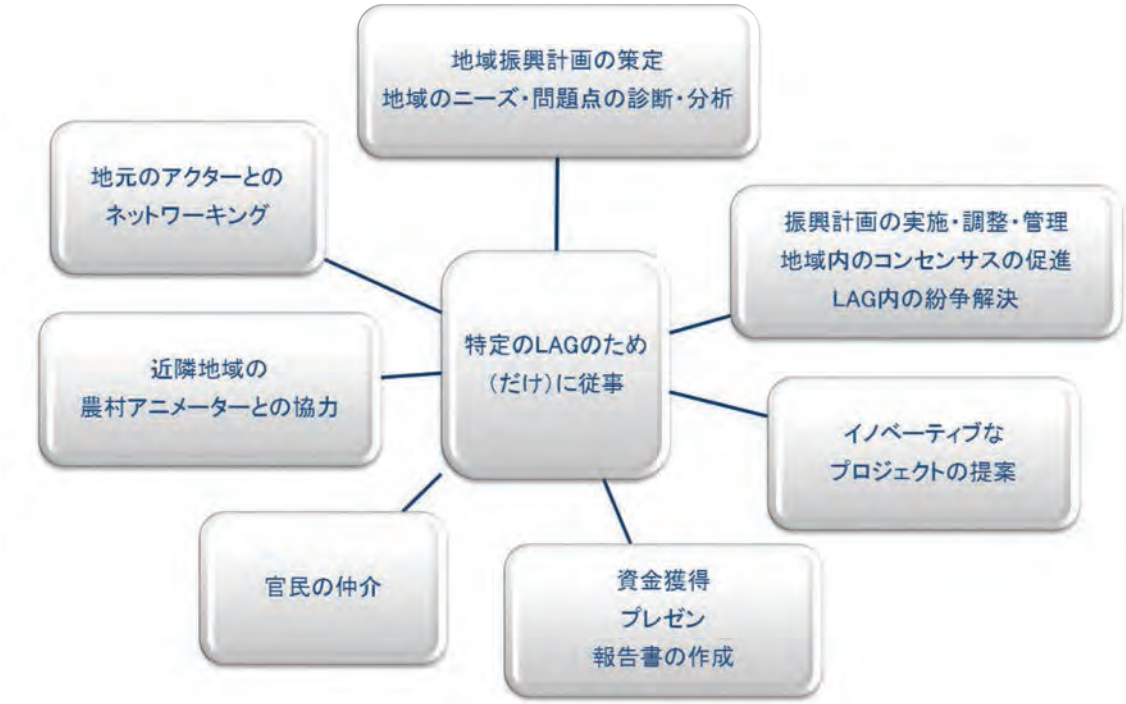
いま１つは，

- 地域外の他の農村アニメーターとのネットワーキング・協力
- 多様な関係者間の仲介・調停，官民の橋渡し
- 地域コミュニティにおける相互扶助の構築および維持

等のように，とりわけ人間を相手としたタスクである。

ちなみに，LEADER 事業では，伝統的な農村社会に根付いていた，相互扶助や近所の強い絆を維持しつつも，さらなる活性化に向けて，女性や若者が参加しやすいコミュニティに変えていくことも重視されている。

こうした住民参加型施策の活用が，地域における話し合いや協働の活性化につながっていくことは疑いない。すなわち，「集団内部あるいは集団間での協働を促進するような，共通の規範，価値観，理解（OECD[8]）」の深まりを通して，新しいソーシャル・キャピタルが醸成されつつあると推察される。



出所：筆者作成.

第１図　農村アニメーターのタスク

（３）　農村アニメーターに必要なスキル

（２）で列挙したタスクは，きわめて高度な実務的スキルや現場対応力を要するものである。

このため，農村アニメーターを育成するためには，一般的な大学院における学術的な専門家の育成とは異なり，「現場で実践する力」の能力振興にウェイトを置かなければならない。

また，強調しておきたいのは，農村アニメーターが職務に従事する場所は，立地や歴史条件によって様々な特徴を持つ農村地域であり，様々な人間が集まった LAG であるということである。現場対応における最大の難関は，ここにあると考えられる。

以下に，農村アニメーターに求められるスキルを列挙する。

- **持続可能な農村振興に資する状況診断・分析力**:
  持続可能な農村振興に関わる様々な分野における学際的な知識と十分な理解（農業，環境保護，経営学，文化の発展，地域社会の発展と福祉，中小企業のイノベーショ

ンおよびサポート，持続可能な農村観光の振興，農村振興のための教育および生涯学習の推進，農村経済の多角化の促進）に基づいた状況診断・分析。

- **コミュニティのニーズおよび問題点の情報収集・情報処理力**:
  社会調査を通じて，地域社会に関する情報を収集する能力，地域の問題および状況の診断，コミュニティの活動に対する個人の態度の調査，観測および批判的思考，適切な情報およびツールの抽出，情報処理，定性データ分析，レポート作成，プレゼンテーション（修辞的なスキル，複雑な問題を説明するスキル），ライティング，Web ページなどの IT スキル。

- **プロジェクトの実行・管理・調整力**:
  時間管理，意思決定能力，費用管理，資金源に関する知識，手続きの基本情報，イノベーティブな思考，グループの管理・調整，プロジェクト管理，リーダーシップ，コンセンサスを得るための話し合い，地方機関や組織（自治体，NGO，地方機関，国家機関）の機能や関連する法制度に関する知識。

- **現場対応力・観察力・臨機応変力**:
  信頼関係の構築，多様なメンバーとの協調性，利害衝突などの調停・紛争解決（コンフリクト・マネジメント），ディスカッション，LAG のモチベーションを上げるスキル，異なる価値観・規範に対する理解および忍耐，情勢の変化に対する臨機応変さ。

資料：筆者作成.

第２図　農村アニメーターに必要なスキル

（４）　農村アニメーターの現状と課題

LEADER アプローチは，2014 年以降も，EU 農村振興政策における重要なツールの１つとして継続される。ポスト 2013 年 CAP 改革により，地域振興戦略にベストフィットするプロジェクトを選択する LAG の自由度が高まるとともに，マルチ資金になることで資金面でのマネジメントがより複雑になることが推察される。

また，地域振興戦略の策定が強化され，より多くのセクターに対処することができるような振興戦略を打ち出していくことが求められるようになれば，これまで以上に農村アニメーターが果たすべきタスクや必要な能力は大きくなるであろう。

質だけではない。拡大 EU で LAG の総数が増加すれば，それだけ農村アニメーターに対する需要も増える。

つまり，EU の農村アニメーターにとっては，より多くの可能性が生まれるとともに，一層のスキルアップおよび能力構築が必須となるものと考えられる。

ドイツでは，農村アニメーター（リージョナルマネージャー）の職業としての不安定さや報酬の低さが指摘されているが（松田[10]を参照のこと），スペインの農村アニメーターもまた，決して現状に満足しているわけではないようである。

Noguera[7]によれば，農村アニメーターにとって満足のいかない状況が続き，職業上の不満やストレスが多くたまっているという。

資料：筆者作成.

第３図　農村アニメーターが直面している困難

Noguera[7]は，農村アニメーターが直面している困難として，次の 3 点を指摘している。

第 1 に，LAG，パートナー，地域のいずれも，農村アニメーターに対する十分な報酬の支払いをしようという意思が低い。

第 2 に，農村振興が何たるかについて，地域の意思決定者の理解が低い。

第 3 に，農村振興においても，農村の補助金依存体質からの脱却が困難で，ボトムアップアプローチの実践は容易ではない。

上述の問題は，程度の差こそあれ，どの加盟国にも見られるため，これらの点を改善していくような対策が望まれる。

３．　EMRA の目的と概要

（１）　EMRA の目的

EMRA の取り組みは，持続可能な農村振興にとって農村アニメーターという高度人材を育成する必要性が，EU レベルで認識されたことを示している。

また，EMRA では，農村アニメーターに修士号を付与し，農村振興の即戦力となるプロとしての新たな資格をつくることで，その社会的地位を高めることを目的としている。これは，LAG における待遇の向上を図るために，農村アニメーターを資格化し，社会的な認知度の向上や LAG の意識を変えることが意図されているものと見てよかろう。

さらに，農村アニメーターを農村における新しい職種として確立することで，農村の雇用創出につながるであろうことも，EMRA に期待される効果の一つである。

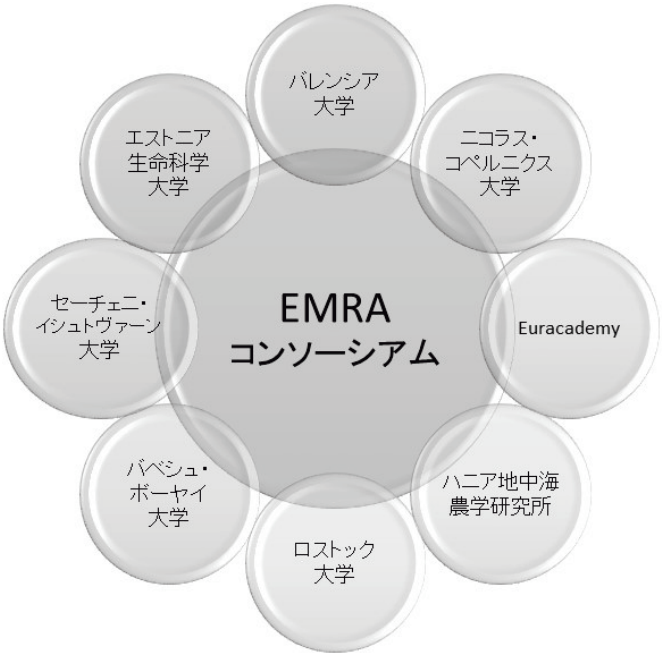
（２）　EMRA の概要

１）　EMRA コンソーシアム

農村における生涯学習機会と農村アニメーターの能力振興を目的としてつくられた EMRA コンソーシアムは，2009 年から数年間かけて，農村振興に関連する幅広い分野を包含した大学院用のカリキュラムを作成した。

この EMRA コンソーシアムは，旧加盟国 5 カ国（スペイン，ギリシャ，ドイツ，フィンランド，エストニア）と新加盟国 3 カ国（ポーランド，ハンガリー，ルーマニア）の，8 つの大学および研究機関から構成される。

以下に，各機関の特徴を紹介しておく。



資料：筆者作成.

第４図　EMRA コンソーシアム

● **バレンシア大学農村振興研究所，スペイン**

Instituto Interuniversitario de Desarrollo Local, Universitat de Valencia: IIDL

スペインで最も古い大学の一つで，90 の学科，17 の研究機関，サイエンスパークに 3,000 人以上の研究者が働いている。2004 年に設立された農村振興研究所は，農村振興の可能性を拡張するため，学科や学部の垣根を越えた学際領域（地理学，経済学，社会学，法律）を扱うことに重点を置き，社会的・経済的な要請に応え，還元することを目的としている。ここには，20 人の研究者が収集されており，農村振興と地域の労働市場の分析に焦点が当てられている。

● **ニコラス・コペルニクス大学農村社会学科，ポーランド**

Nicolaus Copernicus University: NCU

NCU は，毎年約 30,000 人の学生が在籍する国立の総合大学で，農村社会学科は，持続可能な農村振興に関する科学的研究において中東欧で有数の研究機関となっている。農村振興分野で優秀な研究者を雇用し，年間約 50 人を教育している。

定期的に『Eastern European Countryside』を刊行しており，EU 拡大のプロセスに密接に関連した EU プロジェクトのコーディネートも行っている。また，農村社会学科は，学部

と大学院の多様なコースを提供している。EU 農村振興政策の分野では，3 年の学士号，2 年の修士号のほか，遠隔学習コースもある。学科の学生は，農村社会学の 1 年間の大学院コースに参加するオプションもある。

- **持続可能な農村振興のための Euracademy 協会**
  Euracademy Association

Euracademy 協会は，生涯学習や EU 農村振興の多様な関係者間に良好な実践と協力を移転し，農村における能力振興を促進するために，2003 年に設立された非営利組織である。本協会の会員は，20 カ国以上の大学，研究機関，研究者，政策立案者，社会的パートナー，農村振興マネージャーなどから構成される。

協会は，8 つの対面式のサマーアカデミーのほか，e ラーニングコース，10 冊の書籍の出版，ネットワーキング，助言，国境を越えたプロジェクトでの協力，会議などの活動を多数行っている。Euracademy ネットワークは，欧州全域における持続可能な農村振興のための能力振興と生涯学習パッケージについて，8 年の経験を有する。

- **ハニア地中海農学研究所，ギリシャ**
  The Mediterranean Agronomic Institute of Chania: MAICh

MAICh は，高度な地中海農学研究国際センター（CIHEAM），経済学の研究および研修，経営学，農村地域に関連した生物学的技術や環境科学について大学院教育を提供することを目的とした，地中海沿岸の 13 カ国から成る政府間組織である。

持続可能な農業省は，持続可能な農業システムに関する学術研究の経験（有機農業，環境指標，植物病理など）を促進した。情報システム技術グループは，適切な技術の導入を通じて，学術，研究，行政への支援活動を強化する。重点はまた，CD / DVD およびオンラインの両方で，マルチメディアコースを提供している。

- **ロストック大学農村経営研究所，ドイツ**
  The University of Rostock: UR

1419 年に設立された UR は，メクレンブルク=フォアポンメルン州のバルト海地域で最も古い大学の一つである。

10 の学部がある高等教育機関であり，約 80 カ国から 14,000 人を超える学生が在籍している。修士，成人教育や遠隔教育など，80 以上の学習プログラムを提供している。2007 年に設立された学際的学部（INF）では，学際的な研究活動と国際協力に重点が置かれ，大学は近代的な技術的･組織的インフラストラクチャを提供している。農村管理協会（IRM）は，土地利用，決済計画，農業経営，農村政策などの多様な研究分野で優れた学際的な専

門知識を持つ教員および研究者で構成され，土地管理および環境保護のための修士コースがある。

- **バベシュ・ボーヤイ大学社会学部，ルーマニア**
  Babes-Bolyai University: BBU

BBU は，21 の学部を有する国立大学である。社会学部には，社会政策と社会サービスの修士プログラムとともに，学部および大学院レベルでの社会科学，社会学，人類学，ソーシャルワークが含まれる。社会学部では，とりわけ農村社会学，農村振興，多様なプロジェクトの専門的な実務に重点を置いている。国内および国際的なプロジェクトに参加している農村社会学資料センターもある。

- **セーチェニ・イシュトヴァーン大学経済学部，ハンガリー**
  Széchenyi Istvan University: SIU

SIU では，学部レベルの経済学の教育は 1990 年に始まり，現在では，国際研究，公共サービス，通信，経営管理，マーケティング，地域科学の専攻がある。学部，大学院のフルタイムのコースに加えて，95 年からは遠隔学習，2005 年からは e ラーニングも提供されており，実践的なスキルの取得をサポートしている。なお，トレーニングプロファイルは，労働市場の期待に応じて構築されている。

- **エストニア生命科学大学，エストニア**
  The Estonian University of Life Sciences

エストニア生命科学大学は，天然資源の持続的な発展に学術研究上のプライオリティを置いているエストニアで唯一の大学である。農業経済学，農業工学，農業環境科学等の学部があり，生物多様性や景観学に強い。

２） EMRA の 4 つの重点

教育面から見た農村振興の特徴は，学際的で幅広い知識や理解（人文科学，社会科学，地理学，土地利用計画，農村工学等）を要することである。

農村アニメーターは，多様なフィールド（農業，環境，社会福祉，中小企業開発，技術革新，観光，多角化等）にも精通していなければならないが，従来の大学院教育ではこうしたニーズに対応できるものは少なかった。

一方で，再三述べてきたように，農村アニメーターになるには，理論以上に，実践力・応用力の習得が必要となる。すなわち，現場でのコミュニケーション能力や，LAG 内の問題解決能力，資金や法制度を踏まえたマネジメントスキル等の高度な現場対応力，国際的な視野を有することが求められる。

この意味で，農村アニメーターは，すべての関連分野における有能な専門家になることを期待されるわけではない。重要なのは，活動地域の現場において，当該分野の専門家と「会話」ができること，および様々な分野を理解し，地域の活動家たちに要点を伝えられることである。

これら全てのスキルを兼ね備えた人材の育成は容易ではなく，かつ長い時間を要する性質のものであることは明らかであろう。

以上の見地から，EMRA では次の 4 点に重点が置かれている。

□農村振興に関する学際的な知識；
- 農村社会学，経営学，地理学，土地利用計画，農村工学，農学，社会人類学，経済学等

□多様な分野への精通；
- 農業，環境，社会福祉，地域研究，公共政策，中小企業開発，事業振興，技術革新，観光，経営の多角化等

□国際的な視野；
- 農村社会の一員であり，欧州市民であり，グローバルな視野も有する

□現場での多様な取組みをマネジメントするスキル；
- コミュニケーション能力，適切な情報およびツールの抽出，仕事における独立性と自律性，責任感および協調性，分析および批判的思考，レポート作成のノウハウ，異なる価値観や規範に対する理解と忍耐，意思決定能力，問題解決能力，時間管理，コンフリクトマネジメント等

資料：筆者作成.

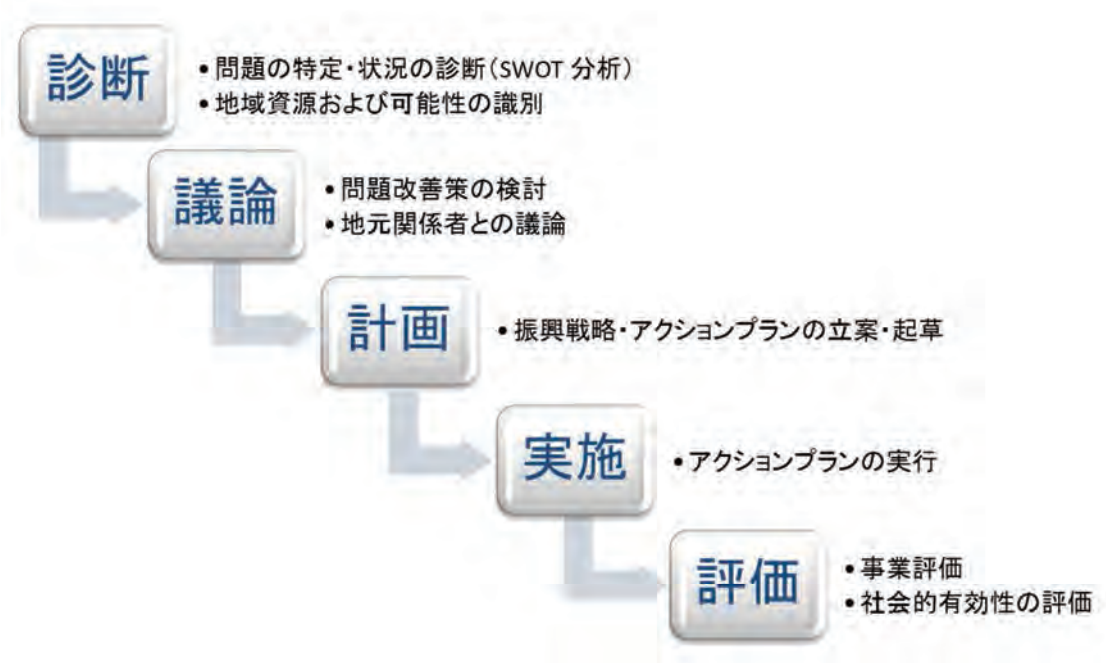
第５図　EMRA の重点

（３）　EMRA のカリキュラム

１）　カリキュラムの特徴と教育ツール

こうして，有能な農村アニメーターに対するニーズと既存教育のギャップを打破するために構築されたのが，農村振興の基礎を形成する理論と実務を包括的にカバーした，大学院の修士課程用のカリキュラムである。

EMRA では，実務のステージに応じて，様々なトレーニングができるような教育ツールが用意されている点に特徴がある。



資料：筆者作成.

第６図　実務ステージに密着した教育ツール

２）　ラーニングメソッド

EMRA は 2 年間のフルタイムで，e ラーニング（講義，オンライン・ディスカッション，グループ課題，個人課題），国際的な対面セミナー，修士論文の 3 つがラーニングメソッドとなっている。

e ラーニングでは，受動的な講義だけでなく，ビデオ会議やビデオチャットを通したオンライン・ディスカッションも積極的に行われる。

また，3～4 人の少人数グループでのプロジェクト共同作業もあり，チームワーク・メソッドを学ぶとともに，多国籍で多文化の情報交換や，相互学習の機会が用意されている。

個人課題では，エッセイや，プレゼン，フィールドワークなどが義務付けられる。

修士論文では，独自の調査に基づき，地域の特定の問題ないし振興ニーズに関する分析を深めていくことが求められる。

なお，言語の異なる EU-28 を対象とするため，これらはすべて英語で行われる。

このように EU 共通の農村アニメーター育成プログラムがつくられたことは，一部の大学による独自の人材育成プログラムしかない我が国にとって，大きな示唆があると言える。

（４）　カリキュラムの構成と内容

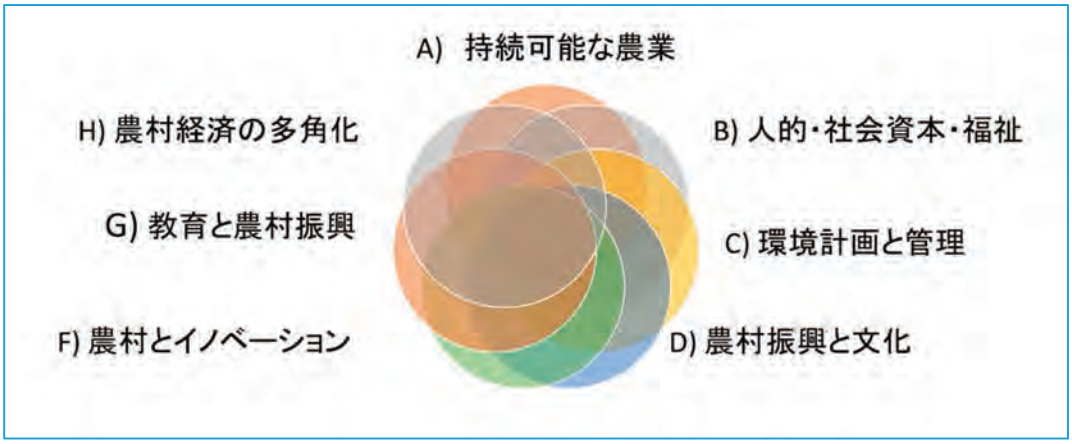
EMRA のカリキュラムは，コアコースと専門モジュールから構成されている。

コアコースは，バレンシア大学によって配信され，次の 3 つのユニットが含まれる。

- 農村振興の理論
- 農村研究の方法
- 農村アニメーターの役割とスキル

専門モジュールは，EU 農村振興政策の枠組みにおける最重要課題にリンクした次の 8 つであり，それぞれに担当大学（教授）が決まっている。

モジュールというのは，EU で現在の課題となっているテーマのもとに集められた授業科目群であり，ここで対象となる農村地域は，EU の法制度で定義される「農村地域（rural areas）」である。



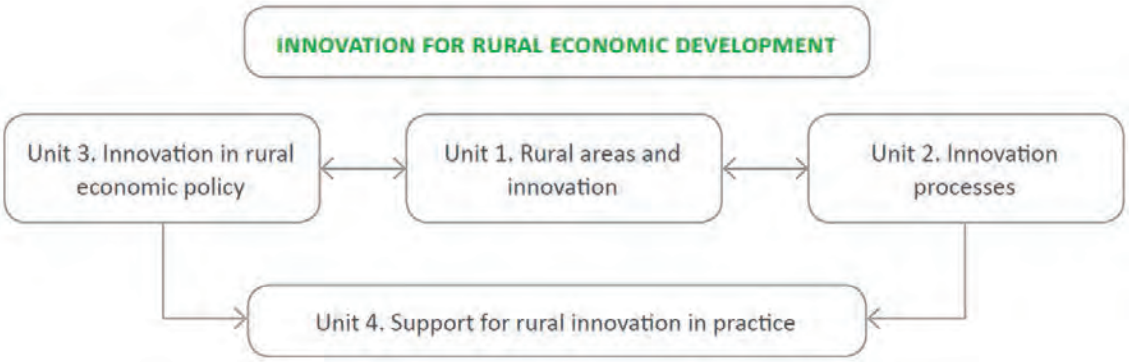
資料：筆者作成.

第 7 図　専門モジュール

本稿では，我が国の 6 次産業化政策への示唆を念頭に置き，これらのうち F）農村とイノベーション，H）農村経済の多角化について，その内容を紹介しておく。

1）農村とイノベーション

このモジュールでは，農村の経済要因と環境要因を考慮した創造的な問題解決手法，イノベーションにつながる強みと弱みの分析，多様な関係者がいる中でのイノベーションの起こし方，イノベーション・プロセスにおける中小企業の役割，地域のニーズを現行のイノベーション支援政策に適合させる方法などを学ぶ。



出所：EMRA[2].

第８図　農村の経済発展のためのイノベーション

講義の内容を概観すると，以下のような理論的・応用的スキルの構築が目指されていることがわかる。

Unit 1　農村地域とイノベーション
- 1.1　農村経済と技術革新，イノベーションの測定
- 1.2　農村地域におけるイノベーションのドライバー　など

Unit 2　イノベーションのプロセス
- 2.1　個人や零細経営へのサポート
- 2.2　オープンイノベーション，コーチング，管理
- 2.3　イノベーションと企業の発展　など

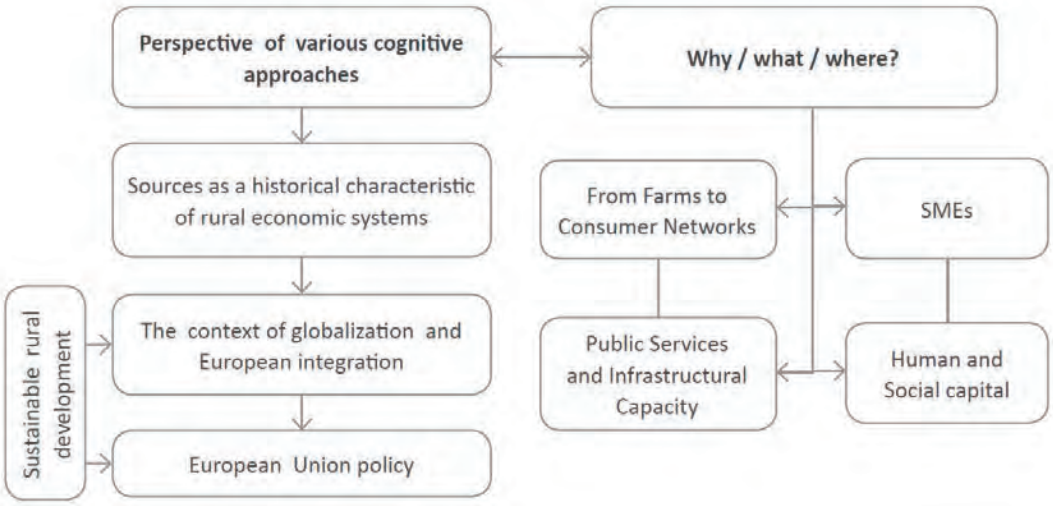
Unit 3　農村経済政策におけるイノベーション
- 3.1　EU のイノベーション政策（国家および地域レベル）
- 3.2　社会的イノベーション
- 3.3　創造性，革新性，持続可能な競争上の優位性

Unit 4　実際のイノベーションへの支援
- 4.1　技術革新を支援する情報，ネットワーク，管理
- 4.2　事業計画へのイノベーションの統合
- 4.3　優れた技術革新の実践事例

２）農村経済の多角化

このモジュールでは，農村地域に適用可能な振興戦略として，現在の社会経済システムの中で農村における活動と収入の多角化がなぜ必要なのか，どういったメリットがあるのか，どのような分野における多角化が望ましいのか，について理解を深める。

また，環境，文化，技術，ローカルおよびグローバル経済の金融という 4 つの異なる視点からアプローチし，農村におけるより一般的な（歴史的，社会学的な）視点から，農業活動が世界経済情勢や CAP 改革，EU 拡大等の変化に適合していることを理解する。



出所：EMRA[2].

第９図　農村経済の多角化

講義では，農村経済の基本特性を十分に理解し，農村の様々な利害関係者や機能を結び付け，多角化戦略を打ち出していくための能力振興を目的とする。

ベストプラクティスやケーススタディの分析を通じて，新しいサービスの提供や外部資金源の特定の方法などを学ぶ。

Unit 1　農村経済の多角化

1.1　農村経済の多角化が意味するもの

1.2　多角化の必要性（様々な要因）　など

Unit 2　農場から生産者・消費者ネットワーク

2.1　地場産品：付加価値

2.2　農家の新たな機能：文化的・環境的遺産の保存

2.3　サービスの提供者としての農家

2.4　収入の多角化の社会的・文化的側面

Unit 3　中小企業

3.1　経済活動の多角化と中小企業の社会経済的役割

3.2　中小企業の発展のための基本要件　など

Unit 4　公共サービスとインフラ

4.1　収入の多角化のためのインフラ

4.2　サービスの新しい形

Unit 5　農村経済の多角化の観点から見た人的・社会資本

5.1　農村経済の多角化と人的資本の増加

5.2　農村経済の多角化と人的資本の強化

４．　EMRA の進捗と最新情報

（１）　EMRA の現状

EMRA は，当初，ポーランドのニコラス・コペルニクス大学（NCU）を中心として 2013 年 3 月から開始される予定であった。

現在は，スペインのバレンシア大学農村振興研究所（Instituto Interuniversitario de Desarrollo Local, Universitat de Valencia: IIDL）を中心として，2014 年 10 月からのスタートに向けた最終準備が行われている。

（２）　進捗と実施が遅れた理由

筆者が行った IIDL の Joan Noguera 氏へのメールインタビュー（2013 年 9 月，2014 年 4 ～6 月）によると，EMRA の実施が遅れた理由は，以下のとおりである [(4)]。

当初，EMRA プロジェクトの中心を担っていた NCU は，プロジェクト開始から昨年までの 3 年間, ポーランド文部省から EMRA を実現するための認可を取得しようとしてきた。

EMRA のコンソーシアムは，全パートナーの合同による学位を創設する計画だったが，ポーランドだけでなく，その他の参加国（ドイツ，フィンランド，エストニア，ギリシャ，ハンガリー，ルーマニア，スペイン）の教育規則との関連で，これは暗礁に乗り上げた。

このため，コンソーシアムは，NCU が学位を授与する唯一の機関となることに合意し，その方向で進めようとしたが，今度はポーランドにおける外国人教授との雇用契約規則が障害となった。

こうした経緯を経て，EMRA を NCU 主導で進めることが難しくなったため，スペインの IIDL に引き継がれることとなった。2014 年 6 月上旬，同国内における大学院の認証評価手続きが無事に終了し，EMRA は 2014 年 10 月から開始される運びとなった。

（３）　EMRA の対象と志願者

EMRA の対象は，

① 人文社会科学（社会学，経済学，政治学，社会心理学），地理学，農学，空間計画，エンジニアリング，経営学，教育学等を学んだ若い学部卒業生で，農村アニメーターとして働きたい者，

② 既に農村振興に携わっている者（たとえば，LEADER や類似のプロジェクトのマネージャーやスタッフ，自治体のために働いている地域振興エージェント，農村のコミュニティのために働いている民間コンサルタント等）や，農村振興に関心のある学生

とされるが，カリキュラム設計上，前者を強く意識したプログラムになっている。

Noguera 氏の見込みによれば，EMRA の導入は欧州全域で大きなインパクトがあり，志願者の数は予想をはるかに上回るであろう。

これらの志願者の大半は，農村振興とマネジメントの分野でキャリアを築きたいと思っている若い専門家や学生である。

反面，EMRA のカリキュラムがすべて英語で行われることがネックとなって，既に現場で活躍している未熟な農村アニメーターの潜在的な需要を取り込むことは難しいと見られている [(5)]。英語力が最大のハードルとなり，受講を希望する者が受講できないという問題が出てくることもあるであろう。

５．　結び

EU における LEADER 事業の経験と EMRA の導入から示唆されるのは，農村振興の現場にボトムアップアプローチを持ち込もうとする場合，これがうまく機能し，大きな政策効果を生み出すためには，農村アニメーターの人材育成が不可欠だということである。

LEADER 事業の場合，地域にとって計画される必要がある振興計画，する必要がある決定，協働で作業する必要があるプロジェクトなどのように，農村アニメーターが真の付加価値を生み出すものを正確に見極められるかどうかに，事業の成否はかかっている。結局のところ，最適な意思決定ができるリーダー役がいるかどうかに，地域の命運がかかっていると言っても過言ではない。

また，我が国の 6 次産業化政策と同様，農村に由来する「資源」を最大限に活用することで新たな付加価値を創造し，雇用の確保や所得向上を図るためには，既存の産業間の垣根をとっぱらい，資源の画期的な活用方法や新たなビジネスモデルを構築しなければなら

ない。

地域の振興戦略に沿って，様々なレベルの多様な価値観を持つアクターを動かし，実際の活動グループのモチベーションを上げ，地域に強固なパートナーシップ（ソーシャルキャピタル）を構築することができれば，地域振興のスピードは大きくアップする。

つまり，地域全体で複数の産業にまたがる農村イノベーションを誘発させながら，多角化の取組みを促進し，農村の活性化を図るには，地域内外のネットワーキング等をまかせられる，信頼できるコーディネーターがなくてはならない存在となる。

こうした高度人材を養成するためには，幅広い理論的知識に加え，OJT での経験が必要不可欠となることを考えれば，農村アニメーターに的をしぼった特別な人材育成プログラムが必要となることは明白である。

また，人材育成には長い期間を要することを考えると，実際の LAG での研修や実務実践などを含む長期的なフォローアップとそのための拠点形成も有用となろう。

最後に，EMRA の直接の受益者は，言うまでもなく，自らのスキルや知識を向上させることができる農村アニメーターにほかならない。しかし，EMRA によって養成された農村アニメーターが，ローカルレベルでの社会経済発展に直接寄与することになれば，彼らが振興に携わる（ことになる）地域もまた，EMRA の受益者となりうる。

この意味で，EMRA は，EU の農村振興の政策効果を高めるための人材育成プログラムであり，今秋から開始される EMRA の今後の進捗や，これによって育成された農村アニメーターの追跡調査を長期的な研究課題とすることとしたい。

［参考文献］

[1] ELARD ホームページ（European LEADER Association for Rural Development）：http://www.elard.eu/news/en_GB/2012/12/03/readabout/european-masters-programme-for-rural-animators.

[2] EMRA: European masters programme for rural animators: Academic Guide, June 2012.

[3] EMRA コース概要（スペイン語のみ）：http://postgrado.adeit-uv.es/es/cursos/juridica_y_social-2/14221280/datos_generales.htm?pdf=14221280

[4] EMRA ホームページ：http://www.emra.umk.pl/conference/emra-consortium/

[5] European Commission (2006), The Leader approach — A basic guide, Luxembourg: Office for Official Publications of the European Communities.

[6] IIDL：postgrado.adeit-uv.es/es/cursos/juridica_y_social-2/14221280/programa.htm#.U4-q7fl_uAY

[7] Joan Noguera (2012), The diversity of non-metropolitan areas in Europe: a challenge for the rural animator, EMRA Conference: “Animation for rural development - a new profession?”, Chania, Crete, 7-9 June 2012.

[8] OECD (2010): Social capital, Human capital and Health: What is the evidence?

[9] http://starr.tamu.edu/files/2013/01/01_Schortall-et.pdf

[10] 松田裕子（2013），「EU における農村振興のリーダー的人材育成—LEADER 事業と農村アニメーター育成事業—」，『海外における農村イノベーション政策と６次産業化』，農林水産政策研究所，2013 年 7 月.

注

（1） LEADER 事業および EMRA の概要については，松田[10]を参照のこと.
（2） ELARD[1]によると，EMRA によって提供されるスキルが最も必要とされるのは LRADER の LAG 等である.
（3） 農村アニメーターは，ドイツのリージョナルマネージャーと同義である。詳細は，松田（2013）P.33 を参照のこと。
（4） インターネット検索をしても，2012 年冬以降，EMRA の進捗については何らの情報が得られなかったことを付記しておく.
（5） ちなみにスペインでは，90 年代に農村振興のための研修を開始し，2000 年にこれを拡張，2004 年にはスペイン版 EMRA を試みたが，失敗に終わっている.